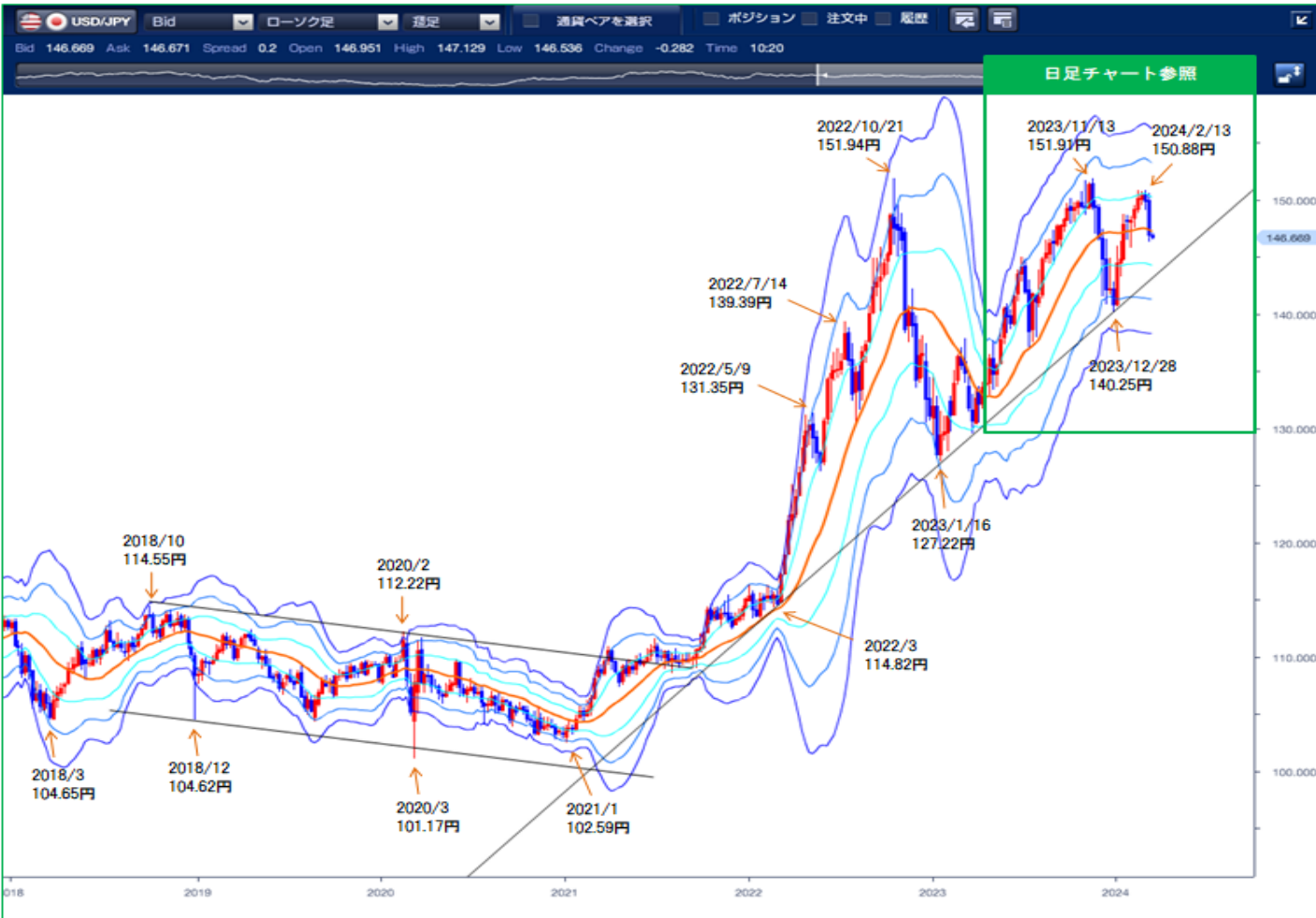


## 週足



## 長期概況

2021/1/6の安値102.59円を起点とした上昇トレンドは、2022年3月のFOMC会合における利上げ開始後、上昇ペースを早め、151.94円(2022/10/21)まで上昇しました。その後、政府・日銀による円買い介入や、米インフレ率の鈍化を理由として、調整の流れが強まり、127.22円(1/16)まで下落しましたが、日米金利差を背景としたドル買い円売りは根強く、再び151.91円(11/13)まで値を戻しました。その後、2023年末にかけて日銀のマイナス金利解除の思惑や、FRBの早期利下げ観測により140.25円まで下落(12/28)したものの、2024年に入り、日銀の金融政策に変更が無いことや、FRBの早期利下げ観測が後退したことで再び150円台まで上昇しています。

## 【2024/3/4~3/8】

3/5発表の米2月ISM非製造業景況指数(予想53.0 結果52.6)が市場予想を下回る弱い結果となったことで149.71円まで下落し、翌6日には「3月の日銀金融政策決定会合で一部出席者よりマイナス金利解除が妥当であるとの意見表明が出される見通し」との一部報道を受け、日銀の早期マイナス金利解除への思惑から円買いが優勢となり、149.33円まで続落しました。またパウエルFRB議長の議会証言でのハト派的な発言を受けてドル売りが加速し、149.10円まで下落しました。

8日発表の米雇用統計では、非農業部門雇用者数(予想20.0万人 結果27.5万人)の強い結果にドル買いが優勢となり、一時147.46円まで上昇したものの、平均時給における前月比(予想0.3% 結果0.1%)、前年同月比(予想4.4% 結果4.3%)、失業率(予想3.7% 結果3.9%)と、軒並み市場予想を下回る弱い結果だったことで、2月2日以来の安値となる146.48円まで急落しました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



## 今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が下向きとなっており、下落を示唆しています。  
週足ボリンジャーバンドは、中心線が緩やかな上向きとなっており、上昇を示唆しています。  
以上のことから、3/11~3/15の週間予想レンジは以下の通りです。

◆ 予想レンジ 145.89円~148.16円

注目レート		テクニカル
上値②	148.16	・2/13高値150.88から3/8安値146.48のフィボナッチ38.2%戻し
上値①	147.51	・2/13高値150.88から3/8安値146.48のフィボナッチ23.6%戻し
下値①	146.48	・3月第2週安値(3/8安値)
下値②	145.89	・2月第1週安値(2/1安値)

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。